

表紙の“人” Mr.フィギュア

今月の一言



今年こそチキンとしよう。

さあ、希望に満ちた1年が始まる。と言いたいが、この齢になり黄昏にまた染まると思うと、ちょっと複雑。とはいえ旧年無事に過ごせたことに感謝しよう！ 今年はいえと、酉年。十二支によれば運氣もお客も取り込むことに繋がると商売繁盛の干支らしい。

さて表紙の写真はポルトガル、この鶏は幸運のシンボルの国鳥ガロちゃん。その由縁はバルセロスの雄鶏の伝説、鶏が鳴いたお陰で無実の青年が処刑を免れた話。酉年生まれは優れた洞察力と多くの才能に恵まれ、几帳面でち密、頭の回転がよく、集中力、持続力もある完璧な性格(表紙の「今年こそチキンとしよう」は只の駄洒落では無いのだ)。まさに筋の通った正論の時代到来か？ 反面、柔軟に妥協することは苦手、自分勝手になり過ぎないよう気をつけよう。

それにしてもポルトガルの空は青い、雲一つ無いとはこのことか。特にデザートワインで有名なポルトワインが積出されるポルトの空は最高で、訪問時も経済は冷え込んでいたのに、みんな、どうにかなるさと気にしない。あの空の下なら陽気になるのもわかります。

話は変わりますが、最近キチンとしていた実話に、胸を打たれました。少し前にパールハーバーの戦艦ミズーリを訪れたときのこと。NHKでも報道され、書物にもなり、ご存知の方もありますが、目の当たりにすると70年前のことがリアルに伝わり心が痛みました。

それは終戦近い1945年4月11日午後、1機の神風特攻機(零戦52型丙)が沖縄東方海上の米国戦艦ミズーリ右舷に突っこんだ。機体は激突四散し甲板上に遺体が投げ出された。戦艦の乗組員は冒

流する行為と怒り狂って海に落とそうとしたが、艦長W・キャラハン大佐は「この日本のパイロットは我々と同じ軍人である。生きている時は敵であつても今は違う。国家に命を捧げた有志であろうと敬意を表し水葬に付したい」と乗組員の反対を押し切り、星条旗に日の丸を描き遺体を包んで、翌12日海軍葬という最高の礼をもって遇した。その後半世紀以上過ぎ、遺族が「艦長の人道的な配慮に一言お礼を言いたい」と慰霊祭が実現し、艦長の長男や元乗組員と対

面。「このように手厚く葬られていたことを知り、心の区切りがついた気がします。」と米国側に感謝したという。まさにきちんとした感動の話。

Mr.フィギュア 本誌の表紙に登場した一見あやしい、どこか可愛い、中年男性。愛犬チャーチルとはいつも一緒。その正体は、実在するビジネスマン恒川憲一氏をモデルに作られたフィギュア。月刊正論の表紙とこのコラムで、厳しく優しく、ダジャレをオシヤレに織り交ぜた温かいメッセージを、読者のみなさまに届けている。



恒川憲一氏 つねかわ・けんいち クリエイター。株式会社シーエムバー代表取締役社長。大阪芸術大学デザイン科を卒業後、広告代理店勤務を経て独立。15年間、絶えずフィギュアを持ち歩き撮影し、ダジャレを考えている。このコラムの真の執筆者。著書に『フォット、一息』(セルバ出版)。

さて話を戻そう、小生、表紙で宣言したからには何をキチンとしようか。きちんとすることは、はじめだ！ 次へのステップだ！ 整理整頓、人間関係、健康、金銭管理。そうだ、まずは基本的なこと、我が社を挨拶のできる会社にしよう！ 我が社のみならず、あ

いさつを徹底できない会社は多い。さて、どんな1年になるのか？ トランプさんはキチンとしてくれるのか、日本も上手くクックされないよう、幸運のガロちゃんに乗ってポルトガルの青空のようになごやかこーちんで羽ばたこみゃー(あ、鶏は飛べへんか)。では、Mr.フィギュアFBでお会いしましょう！